

NPO法人おたすけさんぽく・村上市（新潟県村上市）

令和5年10月より、村上市山北地域において、住民自らがドライバーとなって住民を送迎する公共ライドシェアを導入。広報・利用啓発や利用者目線でのサービス提供にも積極的に取り組み、導入から約1年間で約6倍の利用増を実現。持続可能で利便性の高い住民互助の地域交通体系を構築。



1. 多様な主体の参画

- 市（山北支所）とNPO法人「おたすけさんぽく」が中心となり、**外部有識者を招聘**し、「山北地域交通運営協議会」を組織。**地域住民、医療機関、バス事業者等も巻き込み、地域一体となって協議。**
- 山北地域全体として俯瞰的・整合的な交通ネットワークとなるよう、村上市が中心となり地域公共交通計画を策定し、**路線バスやタクシーを補完**するものとして、**公共ライドシェアの導入**を決定（令和3年度〜）。
- 令和5年10月より、**住民が自らドライバーとなって自ら所有する自家用車を運行**する公共ライドシェア「さんぽくん」を導入。
- 取組周知やドライバー募集に当たっては、**住民や民生委員からも協力を得る**とともに、地域の交通を自ら「考え、作り、使う」をキーワードに、利用者の意見を踏まえ、**取組内容を不断に見直し**。

2. 創意工夫

- **愛称の公募**（「さんぽくん」に決定）や**キャラクターロゴマーク**の作成など、**住民に親しみを持って利用してもらうため地道かつ熱心な広報・利用啓発の取組**を積み重ねるとともに、支援員や民生委員と連携しながら**乗車体験会**や**利用周知**を行い、**高齢者の利用促進**に地道にアプローチ。
- 利用実態調査等により、利用者である**住民からの意見・要望を収集**。協議会での協議も踏まえ、**運行内容を見直し、利用者目線でのサービス提供**に尽力。
→例えば、乗車に必要なチケットを、所定の施設のみならず**車内でも購入可能**に。
停留所近くの地元企業を「**協力事業所**」とし、**冷暖房設備の整った環境で待機**できるよう対応。
- **利用件数は、導入から約1年間で約6倍（39件/月→247件/月）にまで増加**。

3. 自立性・継続性

- 住民が所有する自家用車を活用し、住民自らがドライバーとなることで、運行コスト（車両調達・メンテナンス費用、人件費等）を大幅に抑え、**過大な公的負担を前提としない持続可能な運行形態を構築**。
- 相乗りによる割引サービスの導入や予約受付時間の早期化といった運行管理面での見直しも通じて、**運行経費や運行管理者の負担を抑え**、取組の継続性を向上。

